№	提　案　名	提案団体名	
		代表者氏名	所　属
9	釜川プロムナードの活用 釜川プロムナードをオリオン通りと交差する オリオン通りに次ぐ第2の通りとするために	宇都宮大学　水工学研究室	
		川口　剛	宇都宮大学大学院　工学研究科

指導教官 氏　名	藤本　信義

1 提案の主旨

宇都宮市の中心市街地では、社会環境の変化による市街地の拡散や都心部の空洞化などの影響で、調和のない雑然とした町並みや、個性の無い画一的な景観が広がりつつある。一方で、市民の生活様式の多様化や意識の高まりから、豊かな自然や緑を生かした良好な町並みなど、人々に安らぎをもたらす、ゆとりと潤いのある生活空間を実現することが求められている。こうしたことを踏まえて、今後の街づくりを展望すると、水辺空間を有する釜川プロムナードは大きな可能性を秘めている。

現状の釜川プロムナードに目をむけると、釜川は水辺環境整備事業をおこなった結果，宇都宮市中心部にオアシスを出現させ，市民に身近な水と緑として親しまれている。遊歩道は石だたみで統一され、時計塔、ベンチ等があり、夜になれば釜川沿いの樹木がライトアップされ、都市景観を良いものとするよう、配慮がなされている。また、オリオン通りの釜川に架かる一ツ橋のすぐ南側にある岩場から水を落とす人工滝（ふれあいの滝）を十年ぶりに復活させ、「市民に親しまれる河川にしよう」という意気込みが感じられる。しかし、問題点も数多くある。例えば、川の防護柵や橋の欄干のデザインに統一性がなく、魅力的な都市景観を演出するまでには至っていない。また、水辺環境は水質が劣悪なため、水辺環境整備事業によって造られた親水性が阻害されている。それに加えて、釜川沿いでは、道の端に自転車が不法に停めてあり、通行の妨げや景観を阻害する原因となっている。商業的な賑わいから見ても、釜川プロムナード周辺がオリオン通りに勝ることは無く、人通りも少ない。そこで我々は釜川プロムナード周辺を魅力的かつ個性的な空間にするため、釜川周辺の都市景観や水環境、自転車交通、さらには商業の活性化について改善策を提案する。

2 提案

2.1　釜川の水質改善策について

2.1.1　水質浄化運動の定期的な実施

2.1.2　エコポーラスコンクリートを用いた水草ポットによる水質浄化、景観緑化

2.2　都市景観について

2.2.1　電線類の地中化について

2.2.2　遊歩道の拡幅

2.2.3　建物の表装デザインについて

2.2.4　照明について

2.2.5　防護柵について

2.2.6　ゴミ集積所

2.3　商店街の活性化について

2.3.1　中心市街地におけるさらなる出店促進の補助

2.3.2　アピール員制度について

2.3.3　駐輪施設と商店街の協力

2.3.4　サイクルガイドの配置

2.3.5　自転車運転免許制度